

第 1 回 阿武隈川上流遊水地群地内利活用検討会

議事概要

開催日時：令和 6 年 1 月 30 日（火）10：00～12：00

開催場所：鏡石町健康福祉センター（ほがらかん）2 階会議室

（発言者）●：委員、○：事務局

< 議事概要 >

1. 上流遊水地群の地内利活用検討の進め方について

- 遊水地内の除草などの維持管理をしっかりやってもらえれば、それも利活用の一つの選択肢となる。それが3年に1回程度では木が繁茂し、害鳥獣の住みかになってしまう。1年で1～2回の維持管理は必要である。
- 現状、頻度はわからないが、治水機能の維持に必要な管理（樹木や土砂の撤去など）は国が行う。ただし、利活用者の施設は利活用者が維持管理を行うことが基本である。
- 原則、利活用者が占用許可をとり、維持管理を行うことについては理解できるが、維持管理の負担が大きい。今回は国家プロジェクトとして国も積極的に維持管理に関わってほしい。自治体の一般財源では難しい面もあるため、新しい交付金事業をつくるなど、自治体が協力するスタンスをとりやすくしてもらいたい。この議論は今後も続けたい。
- 維持管理の費用については、行政関係者の調整の場で検討していきたい。
- 利活用の考え方はいつまでにとりまとめるのか？
- 令和5年から概ね3年でとりまとめたいと考えている。検討会は年2回程度開催し、3年で6回を想定している。基本的には遊水地事業のスケジュールとあわせるが、検討に必要な期間はとりたいと考えている。
- 遊水地の工事が令和6年度にスタートする。利活用の方向によって工事に手戻りがないようお願いしたい。
- 町の財政状況もひっ迫している。費用負担が明確になっていないと協力は難しい。特に、占用者が維持管理費などを負担する場合、自治体としては協力できない。だれがリスクを負うのか（ヒト・モノ・カネの議論）を考えてほしい。検討会に下流域（自治体）が入っていない。昨年から話が止まっているが、下流域も一緒に考えていくことを盛り込んでほしい。
- 流域全体は運命共同体であるため、流域が地域にどう貢献できるのかを考える必要がある。民間事業者が手を挙げてくれなければ、利活用の検討が夢物語になる。

- 遊水地の周囲堤は、まちの景観を一変する。特に玉川村はJRの駅も近いため、住民目線で形状や設
えの検討などが必要である。
- 3次元模型やデジタル画像等で住民説明を実施している。今後、現地にて実際の大きさを示す予定で
ある。
- 検討会でどのようなものができるのかを示すことは景観的にも大事である。その際、検討の過程などを示
せるともっと良い。
- いまはVRもある。具体的に示してもらえるとよい。
- 次回検討会で映像や模型などで示していきたい。

- 田・畑で整備方法が変わってくる。牧草地なら安い、水田だと様々な施設・設備の整備が必要である。
また、水田には整備水準が様々ある。どのようなものを整備するかによって、農家も変わってくる。
- どのような農地で何ができるのか、科学的根拠を示してもらいたい。
- 似たような場所での農地整備の知見は提供する。試験圃場を整備する可能性もある。また、事業で大
事なのは、表土をとっておくだけではなく、とっておいた表土を『戻す』までである。戻す表土の厚さや
置き方などの検討が必要である。
- 水路の整備も必要であるが誰がやるのか。表土を戻して営農するまで手間も時間もかかる。早く決めれ
ば農家も戻ってくるかもしれない。
- 科学的根拠による方向性と地域の意向が合致することが重要である。
- 営農に必要な規模や可能な農作物などを検証するため、試験圃場の準備を進めているところである。
今後、学識者や土地改良区の方々の意向もふまえ検討する予定である。

2. 意向調査の実施について

- 企業意向調査では県内22社から有効な回答が得られるのか心配。全国を対象としたエリアで、幅広く
意見を求めた方が良いのではないかと。
- 調査対象については再度検討する。

- アンケート結果はどのように位置づけるのか。参考程度とするのか、重く捉えるのか。
- アンケート結果は基本的に重視すべきと考えるが、実現可能性の見極めも大事だと考えている。

- 住民意向調査の問3-1の選択肢「耕作(営農)」は、他の選択肢とレベル感が違う。農家に対するアン
ケートは実施しないのか。実施する場合は、運用上使えない期間を示す必要がある。
- 実施予定であるが、まだ検討中である。

3. 今後の予定について(第2回利活用検討会まで)

- 作業部会では、遊水地全体ではなく、各自治体が、それぞれの遊水地の利活用について検討を行う

のか。

○作業部会は3町村それぞれで行う。ただし、初回は3町村合同で開催し、前半で情報共有、後半で3町村に分かれて、それぞれの地域性において議論する。検討会では共通事項について議論してもらう予定である。

4. 総括

- 様々な課題が見えてきた。流域全体での合意形成も大事である。
- 3町村の現場の声をしっかり受け止め、よりよい利活用策をまとめていければと思っている。
- 検討会では各首長の思いをしっかり受け止め、地域が良くなる解決策をまとめていきたい。
- 資料2の1ページの利活用者協議会は、国が主体的に関わっていくべきである。
- 何事も裏付けが必要(ヒト・モノ・カネの議論)。企業アンケートは、幅広く聞けば、良いアイデアがでるかもしれない。
- 遊水地内の利活用については、遊水地がある地元の3町村だけの問題ではない。流域として有益なものができるよと考える。
- 本検討には多くの人に関わり、次世代から喜ばれるものを検討することが重要である。
- 流域のための地域、地域のために流域が動くという関係のもとに、この検討が機能するとよい。
- 遊水地の中も大事だが、地域の方々にどのように見えるかという観点も大事である。故郷の風景をつくりながら、地内利活用の検討も同時に進められるとよい。
- 遊水地内に農地をつくることになれば日本初となる。心配事は多いと思うが、我々も知見などでサポートしたいと思う。
- 全面買取方式での農地の事例はない。農地は継続的な利用が大事であり、収益性などについて具体的な検討を行う必要がある。
- 国としても様々な課題を解決できるように一緒に検討していきたいと思う。

以上